

令和2年度

(2020年度)

社会福祉法人 東方会

事業報告

## 目次

はじめに.....	2
総論.....	3
差別や虐待がない地域づくり.....	7
地域の核となる法人になる.....	9
容易に揺るがない経営基盤の構築.....	12
働きたい法人となる.....	16
各事業部門の報告	
① 医王保育園.....	20
② 障害者支援施設 瑠璃光苑（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援）.....	20
医務係.....	21
給食係.....	22
③ モーニングサポート（地域貢献事業：法人独自事業）.....	22
④ デイサポート瑠璃光苑（生活介護）.....	22
⑤ 瑠璃光苑 ホームヘルプ事業（居宅介護・同行援護・訪問介護・総合事業・移動支援）.....	23
⑥ Job センター ピシャット（就労継続支援B型）.....	24
⑦ Job センター シャキッと（生活介護）.....	24
⑧ Job センター キリッと（就労移行支援）.....	25
⑨ ジョブコーチ（職場定着支援）.....	25
⑩ グループホームKITEN（共同生活援助）・ショートステイKITEN（短期入所）.....	25
⑪ グループホーム ビラ・ラズリ（共同生活援助）.....	26
⑫ パーソナルサポートセンター 空（くう）（一般・特定・障害児・地域相談）.....	26
⑬ 基幹型相談支援事業 伊万里・有田障害者生活支援センター（伊万里市、有田町より受託）.....	26
⑭ 瑠璃光苑 居宅介護支援.....	27
⑮ 障害者就業・生活支援センター RuRi（労働局・佐賀県より受託）.....	27
委員会活動報告	
① リスク管理委員会.....	28
② 防災管理委員会.....	28
③ 苦情解決委員会.....	28
④ 虐待防止委員会.....	28
⑤ 安全運転管理委員会.....	29
⑥ 設備管理委員会.....	29
⑦ 広報委員会.....	29
⑧ クレド・マナー委員会.....	29
⑨ 衛生委員会.....	30

## はじめに

今年度は、昨年度後半から続く新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりにより、大きな影響を受けた一年であった。

新型コロナウイルス感染症への対応としては「BCP（事業継続計画）」を策定し、「持ち込まない」に加え「入ってきてしまったとき」の対応についても法人全体で議論し準備を行った。

外出・イベントの自粛が当たり前となり、東方会においても生活に大きな彩を与える各種イベントが軒並み中止や縮小となった。医王保育園での家族を交えた運動会や入園・卒園式、発表会は家族参加の制限や、プログラムの組み換えなどにより小規模で抑える工夫を行った。瑠璃光苑をはじめとした障害福祉サービスにおいても、地域交流会、有田川カワニバル、秋祭りと中止・縮小対応をした。そのような中でも、利用者の楽しみの一つ「日曜買い物」を人出が少ない平日に変更したり、家族の面会にリモート対応の準備を行ったりと利用者楽しい生活を送ってもらおうと工夫を凝らした支援を実施した。

また、毎年職員の資質向上のために、積極的に外部研修に派遣していたが、研修会そのものが中止となり、下期にはWEB研修が主流となっていった。WEB研修のための設備の整備を進め積極的に参加させることで人材育成の流れを絶たない努力を行った。

新型コロナウイルス感染症とは別に、7月には大規模な豪雨災害が発生したが、ようやく佐賀県においても「災害福祉支援ネットワーク（DCAT）」が動き出した。東方会でも佐賀県身体障害児者施設協議会とともに参加することとした。

令和3年4月の介護報酬と障害福祉サービス報酬の3年に一度の改定の情報収集に努め準備を行った。

## 総論

令和2年度に掲げた中長期計画の進捗状況を以下にまとめる。

### 幅広い人材の活用検討

障害のある方、法人定年を超えた高齢の方の活用は積極的に取り組んでいるところである。令和2年度より外国人の採用について検討を行うこととしていたが、こちらも、新型コロナウイルス感染症の流行により、海外との行き来も制限される中、検討を進めるに至らなかった。来年度以降の感染症の収束状況を見極め、対応を測ることとする。

また、令和3年度より介護福祉士実務者研修を法人内で開催することとし、地域での福祉人材育成も含め法人スタッフの資質向上へ向け準備を進めた。

### 人権擁護推進

人権擁護に関する意識を高めるために虐待防止委員会や苦情解決委員会が中心となって計画的に法人内研修を実施した。

厚生労働省は、毎年、高齢者虐待について実態調査を行っているが、12月に発表された調査結果によると、「高齢者虐待と認められた件数は、養介護施設従事者等によるものが平成31年度で644件であり、前年度より23件(3.7%)増加した。」とあり、調査開始より毎年増加の一途をたどっている。これまで目に見えなかったものが見えてきたということでもあろうが、福祉従事者として看過できないデータである。東方会では、「人権擁護推進責任者」を置き、「虐待防止委員会」「苦情解決委員会」などで、虐待の芽をつむ取組をしている。

新型コロナウイルス感染症対策として、法人全体で集合研修を行っていたものを、事業所ごとの小規模研修に変え、委員会から委員を派遣することで統一的な研修を行うことができた。今後、「新しい生活様式」、「With コロナ」の対応として法人内研修の在り方も変化が求められるが、人権に関する研修は「法人基本研修」として継続していく。

### 地域生活支援拠点充実

困難ケースの支援、緊急短期入所対応、地域内の人材育成や事業所連携推進などの取り組みを行い、障害福祉向上のための地域での拠点としての役割を果たした。前述のとおり、法人本部棟2階の新たな研修施設を活用し介護福祉士実務者研修及び介護初任者研修への場所の提供を行い、地域の福祉人材育成に関わっていくこととした。

### 新規事業の安定化・新規事業と既存サービスとの相乗効果による法人総合力の向上・第二期事業開始

令和2年度に第二期工事が始まり、大型倉庫を備えた地域交流相談スペースから法人本部、総合相談センター、多目的研修設備を備えた事務所棟が完成した。「基幹型相談支援事業 伊万里・有田障害者生活支援センター」「計画相談を担うパーソナルサポートセンター 空(くう)」「居宅介護支援事業所 瑠璃光苑」が一つの事務所にそろい、連携を深めることで、利用者支援の向上に資する体制が整った。

令和3年度はいよいよ、新しい重度障害者対応グループホームの建設に取り掛かる。完成時には、グループホーム待機者の入居に合わせて、障害者支援施設 瑠璃光苑の入所、短期入所の長期利用者の地域移行を進めることとしており、様々な支援度での住まいの場をそろえることで、さらに利用者の状況に沿った生活の支援ができるようになる。

### **支援ソフトの有効活用・顧客ニーズに基づくサービス、改善サイクル、各事業所の予算策定能力の確立・入所施設個室化の具体的立案**

厚生労働省は10月23日の閣議に「令和2年度版厚生労働白書」を報告した。高齢者人口がピークを迎える2040年に、医療福祉従事者は全就業者の2割にあたる1070万人が必要になると推計し、人手不足や人口減少が進む中、ICT（情報通信技術）を活用するなどして生産性を高めることが急務だとした。東方会においても以下のような対応を行った。

令和2年度には日誌作成の関係で取り残されていた、居宅介護支援の支援ソフトがバージョンアップされ、保育園を除く法人サービスにおいて統一したソフトの活用ができるようになった。このことにより、法人の複数のサービスを利用する方に対しての統一した支援、情報共有が容易になった。

医王保育園においても、県の指導監査において、支援ソフトの導入を勧められたこともあり、保育所支援ソフトの導入に向けた検討を始める。

事故報告書や、苦情解決委員会、虐待防止委員会などの活動により、改善活動のサイクルができつつあるが、事業所によっては同様の事故が繰り返されることも見受けられ、現場の意識改革が必要と思われる事例もある。

事業所予算策定能力の確立については、統一したソフトを活用し取り組んでいるが、法人本部による指導が必要な場合も多く、途上である。

入所施設個室化は、第二期工事の完了後、利用者の変化に合わせて具体的な検討を始めることとなる。

### **各事業所の自立的経営能力及び法人資源の一体的管理システムの確立**

毎年、中間評価会議、事業計画会議において事業所の事業計画の進捗状況の確認と修正を行っている。事業運営における課題の共有と事業所メンバーへの周知など年を追うごとに向上している。

### **資格取得支援の充実・キャリアパスと人事考課システムの一体化**

資格取得支援としては、スタッフからの要望もあり、法人研修施設を活用した介護福祉士実務者研修の受け入れを検討し、令和3年度から開始することとした。

キャリアパスと人事考課システムの一体化については令和3年度以降に検討を進めていく。

## 理事会・評議員会の開催 理事会

開催年月日	議案等
第1回 令和2年5月28日	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新型コロナウイルス感染症対策に関する対応状況</li> <li>2. 理事長 職務執行状況報告</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成31年度 東方会 事業報告（案）について</li> <li>2. 平成31年度 東方会 決算報告（案）について定款の一部改定について</li> <li>3. 定款の一部改定について</li> <li>4. パーソナルサポートセンター 空（くう）運営規程の一部改定について</li> <li>5. 評議員選任・解任委員の選任（案）について</li> <li>6. 定時評議員会の開催（案）について</li> </ol>
第2回 令和2年7月28日	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長 職務執行状況報告</li> <li>2. 大国拠点整備事業進捗報告</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東方会 第1次補正予算（案）について</li> <li>2. 障害者就労支援センター 運営規程の一部改定について</li> </ol>
第3回 令和2年9月29日	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長 職務執行状況報告</li> <li>2. 大国拠点整備事業進捗報告</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行政指導による障害者就労支援センター運営規程の一部修正について</li> <li>2. 東方会 第2次補正予算（案）について</li> </ol>
第4回 令和2年12月15日	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長 職務執行状況報告</li> <li>2. 大国拠点整備事業進捗報告</li> <li>3. 基本財産処分申請についての伊万里市承認報告</li> <li>4. 令和2年度医王保育園指導監査結果報告</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者就労支援センター 就労定着支援事業開設と運営規程（案）について</li> <li>2. 東方会 第3次補正予算（案）について</li> </ol>

<p>第5回 令和3年2月16日</p>	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新型コロナウイルス感染症発生について</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 滝道学監事逝去に伴う新役員候補（案）について</li> <li>2. 評議員会開催（案）について</li> </ol>
<p>第6回 令和3年3月23日</p>	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長 職務執行状況報告</li> <li>2. 大国拠点整備事業進捗報告</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東方会 第4次補正予算（案）について</li> <li>2. 東方会 令和3年度事業計画（案）について</li> <li>3. 東方会 令和3年度当初予算（案）について</li> <li>4. 東方会 経理規程の一部改定について</li> <li>5. 東方会 就業規則の一部改定について</li> <li>6. 東方会 給与規程の一部改定について</li> <li>7. 東方会 看護休暇規程の一部改定について</li> <li>8. 東方会 介護休業規程の一部改定について</li> <li>9. 役員賠償保険契約について</li> </ol>

## 評議員会

開催年月日	議案等
<p>(定時評議員会) 令和2年6月20日</p>	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成31年度 東方会事業報告について</li> <li>2. 大国拠点整備事業について</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成31年度 東方会 計算書類及び財産目録の承認</li> <li>2. 社会福祉充実残額の報告</li> <li>3. 定款の一部改定について</li> </ol>
<p>(臨時時評議員会) 令和3年2月27日</p>	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新型コロナウイルス感染症発生について</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東方会 理事及び監事の選任について</li> </ol>

## 監事監査の実施

開催年月日	内容	意見・結果
令和2年5月21日	① 平成31年度事業報告書等	適正
	② 平成31年度計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録	適正

## 差別や虐待がない地域づくり

### 人権擁護教育の継続

- 人権擁護推進責任者を中心とした活動
- 体系化された研修を継続的实施
  - \*新型コロナウイルス感染症の影響により3密を避けた研修体系へ変更となっている。

### 法人内研修

#### 虐待防止委員会

##### 委員会活動

1回/2ヶ月、各事業所人権研修実施状況確認、イエローシート内容確認、年度計画テーマの話し合い等

##### 身体拘束等適正化委員会

1回/3ヶ月、身体拘束等適正化に関する指針に基づき止むを得ない身体拘束のチェック及び解除に向けた話し合い

##### 人権研修

7月～8月各事業所で動画視聴。人権啓発ビデオ「あなたがあなたらしく生きるために性的マイノリティと人権」

##### 虐待防止研修

声掛けマニュアル唱和・身体拘束適正化研修・虐待防止セルフチェックリスト実施（2回/年）・声掛けマニュアル内容に沿った職員評価（1回/年）・東方会版意思決定計画策定及びガイドライン、マニュアル再周知

##### 新人職員研修

4月及び入職時に各事業所で実施。虐待防止・差別解消をはじめとする人権研修。

##### 施設入所体験研修

6月～3月まで2回/月実施。法人各事業所より派遣。18名研修参加。

##### 意思決定支援計画書作成

東方会意思決定支援ガイドライン・実施要項に沿って、各担当事業所で作成



## 苦情解決委員会

### 委員会活動

1回/2ヶ月、苦情解決規程に沿った要望・意見・苦情受付内容・対応内容の確認。年度計画テーマの話し合い等

### 苦情解決伝達研修

8月～10月にかけて苦情解決委員が各事業所で講義・グループワーク実施

## クレド・マナー委員会

### 委員会活動

1回/2ヶ月、クレド浸透状況確認、ありがとう券の活用推進、マナーアップに向けての取組、年度計画テーマの話し合い等

- ・ 各事業所でマナーアップ向上を目指して（マニュアル）唱和
- ・ 素敵な人アンケート実施、フィードバック（1回/年）

### 法人外研修

佐賀県、佐賀県社会福祉協議会、その他種別団体主催の法人外研修を受講した。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、すべてオンライン研修受講となった。研修内容は以下の通り。

- ・ 相談支援従事者初任者研修
- ・ ハラスメント防止セミナー
- ・ 権利擁護と虐待防止研修
- ・ 障害者虐待防止リーダー研修会

### 意思決定支援計画書に基づいた意思決定支援の実施

各事業所で意思決定支援ガイドライン・実施要項に沿い、計画書作成中。取り組みを継続し、来年度には対象の全利用者の計画作成を行う。作成に向けて意思決定支援ガイドライン・実施要項の内容について再度全職員へ周知した。

### 人権擁護を目的に設置した安心カメラ導入後の評価

利用者・家族、職員からの申し出による虐待と疑われるような不適切なケア、ハラスメント事項、介護事故等のリスク事項、苦情申し出事項等の事実確認において安心カメラ管理規程に基づき、それぞれの申し出に応じて録画内容の確認、検証を行った。映像、音声も鮮明に確認でき、人権擁護、ハラスメント防止、その他リスク事項の事実確認も確実に行うことができた。

結果として利用者、職員の人権擁護、ハラスメント防止に大きな役割を果たした。

安心カメラが正常に作動しているかどうか1回/2週間、管理者にてチェックを実施した。

### マナーアップ活動の推進

マナーアップ活動については前述の通り、クレド委員会が中心となり各事業所でマナーアップ向上を目指して、マニュアルや虐待防止委員会声掛けマニュアルの唱和を毎日実施した。8月にマナーアップのアンケートを全職員に実施し、マナーアップに関して日常的に意識して実施できているか確認、評価した。そのアンケート内容を全職員へフィードバックし、東方会のサービス

品質に繋げるよう促した。マナーアップマニュアル、声掛けマニュアルを通じて全職員の人権意識向上に繋がっている。

また、東方会の職員としての標準をマニュアルにより定め、職員指導の根拠として、有効活用した。

### 身体拘束等の適正化に対する取り組み

身体拘束等を如何に解除できるか身体拘束適正化委員会内で知恵を絞り、実際に身体拘束等の解除に繋がった。来年度4月の障害福祉サービス報酬改定において、障害者虐待防止への取組と身体拘束等の適正化について現行よりも更に強化される予定となっているが、当法人の指針内容は全ての内容を網羅しており、現行の取組を継続する。

### 意思決定支援が必要な全利用者の計画作成、及び計画書に基づいた意思決定支援の実施

意思決定支援計画のシステムは完成した。入所利用者及び在宅利用者の計画作成を進めていく。

### 人権擁護・ハラスメント防止の更なる強化を目的とした安心カメラ未設置事業所の設置検討

利用者の転倒、ハラスメント防止などリスク検証に十分な効果が得られたことから、法人各事業への設置検討を進めていく。

### 法人外における人権擁護教育の強化

- 地域生活支援拠点活動を中心とした地域に向けた人権教育の実施

法人内人権擁護・教育活動内容の発信（るり色新聞の地域への回覧、法人ホームページブログを活用した人権教育活動の発信、伊万里市・有田町の行政を含む関係機関への情報発信等）

## 地域の核となる法人になる

### 大國拠点新規福祉サービス等事業整備に向けて

- 令和2年3月理事会にて地域交流相談スペース・倉庫、事務所棟新築工事請負業者選定。
- 4月より請負業者による建築申請、基礎調査が開始。
- 地域住民への説明を行い、7月から地域交流相談スペースの基礎工事・建設工事を開始、9月末に完工。
- 10月からの旧建物の解体工事に向け、新事務所棟建設までの間、総合相談センターを一時的に完成した地域交流相談スペースに事務所を移転。
- 10月5日解体工事安全祈願を行い、同日より解体工事を開始。予定より早く11月13日完工、騒音や埃等による地域からの苦情等なく無事終了。
- 11月30日事務所棟建設工事に伴う地鎮祭を執り行った。12月より事務所棟基礎工事・建設工事が始まり、令和3年3月末完工。



\*上記写真： 地域交流相談スペース完成（左）、大國拠点旧建物解体工事（中央）、事務所棟完成（右）

## 地域生活支援拠点事業

地域生活支援拠点の多機能拠点整備型として、伊万里市、有田町の1市1町と契約を結び5つの機能を基に活動を行った。

### ① 相談

#### コロナ禍での相談支援対応

- 新型コロナウイルス感染症対策短期入所希望者への受入  
(伊万里市3名、有田町1名)

#### 障害者就業・生活支援センターRuRi 活動終了の準備

- 労働局、県への終了手続き
- 障害者就業・生活支援センター新規事業所への引継ぎ

#### 共同支援強化加算実績（困難事例対応）

- 金銭トラブルや自殺未遂など、警察や弁護士を入れての対応（4件）

#### 災害の対応

- 障害者世帯、一人暮らしへの安否確認、避難所への誘導、短期入所の調整
- 熊本県の障害者支援施設への物資輸送

### ② 緊急時の受入・対応

#### 圏域外からの依頼増加

- 瑠璃光苑とショートステイ KITEN で短期入所の調整
- 短期入所長期継続利用者の調整（行政、相談支援事業所）

#### 台風対応

- 9月台風9号、家屋損傷によりショートステイ受入（1名）
- 9月台風10号、グループホーム ビラ・ラズリ入居者緊急受入

### ③ 専門的人材養成機能

#### 同行援護従事者養成研修

- 9月から10月の3日間研修（法人企画）

#### 初任者研修、実務者研修実施のための準備（計画外）

- 来年度法人開催に向け、外部教育機関と折衝を重ね開催目途が立った。

#### ④ 地域の体制づくり

##### 自立支援協議会

- 6月の事務局会議以降、新型コロナウイルス感染症の影響で開催なし

##### 地域相談支援事業の充実

- 地域の事業所への相談支援開所の働きかけ
- 伊万里市、有田町へ障害福祉計画への提示依頼
- 新規開所事業所への指導
- 困難事例対応協力
- 地域包括ケアの会（社会医療法人謙仁会主催の地域関係機関連携組織）への参画

##### 第4次伊万里市障害者計画、第4次有田町福祉計画への参画

- 伊万里市障害者計画の副委員長、有田町福祉計画の委員として計画策定に携わる  
（※基幹型相談支援事業 伊万里・有田障害者生活支援センター長）

##### 体験の機会の場合

- 就労継続支援B型事業所 Job センター ピンキとへの体験利用

令和2年度 地域生活支援拠点活動実績 (件)

活動	相談	緊急対応	体験	人材養成	地域体制	その他	計
実績	4	36	2	14	11	1	68

#### 計画外

##### 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域応援

新型コロナウイルス感染症の影響の中、以前のように外出や懇親会などできない制限のある状況下で法人職員のモチベーション低下など見受けられ、「新型コロナウイルスに負けるな!」と題し応援食品等を全職員に提供した。また、この取組は地元飲食店の売上減少などによる休業や閉店の危機にあることを聞き、少しでも地元へ貢献できればと思い取り組みを実施した。

- 地元飲食店応援： 弁当提供 (3回実施・職員親睦会企画)  
地元料理店の美味しい料理を給食で提供 (3回実施)
- 地元菓子店応援： 菓子提供 (2回実施)

##### 地域公益活動の推進

地域公益活動については、令和2年度計画で示された通り、市内複数法人間連携による地域公益活動及び法人主体による地域公益活動・交流活動を行った。

しかしながら、有田川カワニバル等人が多く集まるイベントについては、新型コロナウイルス感染症の影響にて中止になり、交流の機会が消失した。

市内複数法人間連携による地域公益活動 → 『なんでも福祉の相談所』活動実績

年度 \ 相談件数	連携法人全体での 相談件数	当法人に寄せられた 相談件数	備考
平成 31 年度	2 件	1 件	年度途中より事業開始
令和 2 年度	13 件	4 件	

※ 上記件数は、『なんでも福祉の相談所』として相談受付をした数を掲載。

※ 参考として、法人相談支援事業で対応した相談件数を下記に記載。

〔参考〕法人相談支援事業所相談件数 (件)

年度 \ 相談件数	基幹型相談	PSC 空	RuRi	居宅支援	備考
平成 31 年度	5,863	6,566	3,226	703	
令和 2 年度	6,911	7,023	3,109	660	

『なんでも福祉のみまもり隊』主な活動実績

- 通所サービスの送迎途中、火事を発見し、人命救助を実施
- 送迎中、利用者家族の容態急変に対応し、人命救助を実施
- 災害時の要支援者に対する安否確認と、必要な支援を実施  
(避難所への誘導、ショートステイ等緊急的な福祉サービスの調整)
- 災害時における被災者への支援  
(被災復旧支援)

【令和 2 年度 新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった交流活動】 (主なもの)

- 有田川カワニバル (地域共催での夏祭り)
- 地域交流会 (周辺地域住民との交流会)
- 入所施設と医王保育園との各種交流会
- 中里保育園交流会

## 容易に揺るがない経営基盤の構築

大国拠点新規福祉サービス等事業整備 (\*事業内容は「2.地域の核となる法人になる」に記載)

- ・ 地域生活支援機能強化 (サービス地域化・地域共生化)
- ・ 法人本部の法人集約機能向上
- ・ 準備段階での利用者への丁寧な説明
- ・ 全スタッフの協力体制の形成



- 計画通り実施した。：スタッフ、利用者の事業理解を促進し、来年度に向けた準備も着々と進行している。

### 令和3年度報酬改定に向けた準備

- ・ 情報収集
- ・ 新給付費の分析、試算
- ・ 経営計画との摺り合わせ
- ・ 利用者契約更新活動
- ・ 第二期新規事業計画への影響評価等



- 計画通り実施した。：12月に来年度報酬0.7%UPという情報が流れた。各種資料で示されている来年度障害福祉サービスの方向性について確認し、準備を行った。

### 圏域連携強化

- ・ 伊万里市公益事業推進協議会の活動への参画
- ・ 地域生活支援拠点事業の面的整備推進
- ・ 就労系事業を通じた圏域企業関係者との連携強化
- ・ 福祉教育を通じた教育機関との連携強化



- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。しかし、相談支援が中心となり、圏域内サービス事業所などとの関係は明らかに強化されている。

### 一体経営を目指した仕組みの確立

- 経営会議申し送りミーティングの徹底により、理事長の経営意思が事業所リーダークラスに浸透し一体的事業推進力が向上した。
- リーダー日報を活用した報告能力が向上し、利用者・地域・資源（ヒト、モノ、カネ）状況把握が可能となり経営判断の精度が高まった。
- 新型コロナウイルス感染症対応が好影響をもたらした。クラスター発生時などは法人全体での対応が余儀なくされる。そのためBCPの検討過程において連携強化が図れた。
- 委員会活動においては「委員長会議」を毎月設置。経営会議からの全社的改善提案には至っていない。
- グループリーダー以上の管理能力は明らかに向上した。経営会議メンバーが各事業所会議、ミーティング状況を点検し、マネジメントサイクルを浸透させた。特にリーダー研修内容の改善をはかり教育体制も充実させた。
- 経営方針にマッチした内部監査が機能した。各事業マニュアル等の更新が促進された。
- スケジュール管理の向上（入所・グループホーム利用者認定調査時期カレンダー設置 済）

## サービスの質の向上

以下、成果として列挙するが新型コロナウイルス感染症の影響を少なからず受けており満足する内容には至っていない。

- 人権擁護体制の維持→虐待防止、苦情解決委員会、研修等はすべて実施。
- 意思決定支援計画に基づく支援体制（虐待防止委員会が構築）
- 個別支援計画の充実→併用利用者について事業所サービス管理責任者が一同に会する「月例モニタリング担当者会議」が円滑に開催されるようになった。
- ビラ・ラズリのグループホーム化による入居者満足度の向上→健康管理面での満足度向上
- ホームヘルプ事業所移動支援サポート体制確立→コロナ禍の感染予防体制も含め外出などの社会参加をサポートできる体制が整った。
- 障害者就労支援センター収益確保体制→確立。特に Job センター キリット（就労移行支援）に関し、ハローワーク等の機関との関係強化により事業継続のメドが立った。
- 相談支援事業に就労サポートを付加→未実施。障害者就業・生活支援センターRuRi とパーソナルサポートセンター空（くう）の間での打ち合わせもできていない。空（くう）の計画相談に係る業務が増大したため。
- 障害者就労支援センター工賃向上 → Job センター ピシャット（就労継続支援 B 型）は前年度工賃をクリアできた。Job センター シャキット（生活介護）は新型コロナウイルス感染症による出店販売数の減少を受けて、前年度工賃を下回った。
- 利用者、来苑されるご家族などに担当スタッフがわかるよう写真・保有資格など記載した職員カードを掲示し見える化した。

## 安心と安全

- 防災対応能力の向上→9月6日～7日台風10号が接近した。超大型という事前情報の中で入居系事業所において万全の態勢を備えることができ最小の被害に止めることができた。
- グループホーム利用者、地域住民の避難先となった場合の新型コロナウイルス感染症防止対応に不安があった。
- 佐賀県災害派遣福祉チーム（佐賀 DCAT）が発足し、要請に応え当法人からも1名派遣。
- 防火管理者研修に派遣できず→新型コロナウイルス感染症の影響で開催が激減したため。
- 虐待事案はゼロ。イエローシート提出が減少している。虐待防止委員会の見解を求めている。
- 交通事故は軽微事故が発生。人身事故はなし。安全運転教育、チェックは安全運転委員会が徹底をしている。

## 事業安定化

- ホームヘルプ事業→福祉ホームのグループホームへの事業変更に伴うスタッフの異動。産休者の増加により業務集中を余儀なくされた。利用者の他事業所への移行も円滑に行え、また事業集中に伴う業務体制など整備ができた。
- ショートステイ KITEN 年間延べ利用者数  
(平成 31 年度) 1130 名 →増加→ (令和 2 年度) 1,329 名

- 障害者就業・生活支援センターRuRi 事業の撤退に伴う引継ぎ→労働局／佐賀県の指示のもとスムーズな作業が行えた。
- 令和3年度開始 就労定着支援事業の準備→9月から本格的に準備に入り、県より認可承認を受けた。
- 各事業所の予算管理能力については、法人本部主導の教育によりレベルアップが図れた。
- データ活用→入所施設、デイサポート事業所で基礎データ更新開始。

### 圏域外連携強化

- デイサポート瑠璃光苑（生活介護事業）の送迎範囲を拡大し、サービス資源が不足している地域のニーズ充足に寄与できた。
- 圏域外市町からの問い合わせが急激に増加し、調整漏れなどが発生しないよう毎週ミーティングを開催することとした。

### スタッフへの働きかけ

- 働きやすさを追求した。法人本部を中心とした活動がスタッフへ浸透し始めた。
- グループリーダー以上の管理監督スタッフへは全体会議内容を変更し、事業報告中心から講義中心へ変化させた。令和2年度は「働きやすさ」のベースとなる講義をシリーズ化した。
- スキルフルリーダー運用に着手→サービス管理におけるエキスパートコースを設け、キャリアパス制度において「マネジメント系」と「サービス系」の複線化をおこなう作業に着手した。
- スタッフの中で、法人理念の実現がやりがいに通じるものであるという認識が芽生えた。試行錯誤ではあるが、経営基盤を強化するために、この取り組みは来年度以降も継続していく。

### 計画外

#### 新型コロナウイルス感染症対応

- **通知対応**  
国県市町から次々と流れてくる通知文に対し、丁寧な確認と冷静な対応をおこなった。
- **圏域感染状況の確認**  
市中感染状況を基本とした対応を図った。
- **法人BCP（事業継続計画）の策定**  
経営会議において市中感染やスタッフ・利用者罹患の状況に応じたBCPを策定した。
- **サービス場面での感染予防策の確立**  
法人全体のBCPに合わせて各事業所サービス場面に応じた実践的マニュアルを準備した。
- **スタッフ教育の徹底**  
各事業所マニュアルのシミュレーション、標準予防策や感染症対策の為の個人用防護具（PPE）使用に関する研修を徹底した。
- **利用者へのメンタルケア**



利用者が、家族や社会との関係を遮断されないようリモート面会などの環境を整えた。

- **スタッフへのメンタルサポート**

法人本部が心理的負担を考慮した各種ケアを行った。また、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金慰労金についても対象者へ漏れなく支給をおこなえた。

- **利用者や家族への丁寧な説明**

各事業所において実施する対応について、利用者や家族の不安や混乱を防ぐため、文書などを作成し丁寧に説明を行った。

- **リモート会議・研修の基盤整備**

法人本部がシステム業者と迅速に調整を行い、基盤整備を行った。

- **資材調達**

法人本部を資材購入窓口として一本化した。全事業所の要望に応え滞りなく資材供給をおこなえた。

## 働きたい法人となる

### スタッフの状況

- 年代別状況

	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	総計	比率
正職員	19	28	38	20	1	0	106	63.86%
パート等	3	13	4	3	30	8	61	36.75%
総計	22	41	42	23	31	8	167	
比率	13.25%	24.70%	25.30%	13.86%	18.67%	4.82%		

- 管理的職員の状況

	管理職	係長	主任	副主任	GL	GL補助	総計	比率
男	2	3	0	5	4	2	16	44.44%
女	3	0	6	3	5	3	20	55.56%
総計	5	3	6	8	9	5	36	

注)GL:グループリーダー

- 主な資格の取得状況

介護福祉士	41	保育士	15	管理栄養士	2
社会福祉士	11	看護師	6	栄養士	5
精神保健福祉士	5	准看護師	3	調理師	14

- 年次有給休暇平均取得日数 11.4日（正職員 11.0日、パート 12.4日）

- 育児休業取得 7名、育児短時間勤務 4名

- 障害者雇用率 5.26%

## 採用機能の強化

〈令和2年度実績〉

- 採用

	正職員	パート等	計
令和2年度*	6	14	20
平成31年度	8	16	24

※) 高校新卒者1名を含む

ビラ・ラズリのグループホーム化に伴い、世話人4名を採用

- 退職

	正職員	パート等	計
令和2年度*	3	10	13
平成31年度	9	7	16

※) 退職時60歳未満の職員の平均勤続年数は6年2か月

\*新型コロナウイルス感染症の影響

- ・ 外国人人材の活用検討は見送りとなった
- ・ 合同就職説明会等の開催なく、会社説明会用ブース装飾の活用はできず

## 人材育成、資格取得支援

### 定着支援

- ・ 福利厚生の充実
  - ・ サガン鳥栖法人向け年間シートの購入・活用
  - ・ ファイナンシャルプランナーによる個別相談・研修会  
\*無料で専門家による個別相談を実施中で、スタッフの保険見直しなどに役立っている。研修会については、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となり、現在Web研修等で検討中。
  - ・ 制服の刷新
  - ・ 年末調整説明会の開催
- ・ 法人福利厚生メニューの見える化
  - ・ 法人内職員情報伝達ツールを活用し、随時情報発信

### 指導的立場のスタッフ（グループリーダー以上）の資質向上

- ・ 全体会議の再編
  - ・ 職位に求められる力を身につける研修の導入
- ・ グループリーダー等昇格者研修の再編
  - ・ ディスカッション形式の研修や予算管理研修の導入
- ・ 法人内委員会の委員長会議の開催（新規）
  - ・ 横断的協力体制の強化

## スタッフの資質向上

- 正職員はいずれかの法人内委員会に所属し、活動した

## 研修派遣計画

- 新型コロナウイルス感染症の影響
  - ・ 上半期は外部研修が軒並み中止となった。下半期は、オンラインで開催されるようになり、県内の研修はほぼ計画通り受講できた。全国規模の研修は中止も多く、オンライン研修のみ受講した。
  - ・ オンライン研修は、移動の時間や経費がかからず、今後も活用していきたい。
  - ・ 法人内部研修は、事業所ごとに開催するなど、工夫しながら開催した。
- 研修成果の業務への反映強化（研修報告の適正化）
  - ・ 研修報告書を改定し、あわせて、研修評価書を導入した。

## 資格取得

- 同行援護研修（一般）の企画・開催（地域生活支援拠点事業）（継続）
- 主な資格取得・更新実績
  - サービス管理責任者 1名
  - 相談支援専門員 2名 更新1名
  - 介護支援専門員 更新研修1名 再研修1名
  - 同行援護研修（一般）3名
  - 介護職員等による喀痰吸引等実施のための第3号研修 2名
  - 調理師 1名
  - 国家試験合格 社会福祉士 1名 介護福祉士 1名
- 資格取得のための書類取り寄せや証明書発行の支援（継続）

## 健康管理

### 持ち上げない介護推進

- 入所施設
  - ・ 低床ベッドへの入れ替え（継続・令和5年度まで）
  - ・ 移乗サポートロボット Hug 導入

### ハラスメント防止対策

- ハラスメント相談体制の拡充（相談窓口担当者の増員）
- 利用者向け啓発キャンペーン（利用者向け研修会の開催）
- ハラスメント防止セミナーの受講（窓口担当者、並びに、管理的職員等）

### 健康診断受診病院の再検討

〈令和2年度実績〉

- 現在受診している病院の市外移転に伴い、利便性の観点から受診病院を再検討する。

## 出退勤管理の改善

- 勤怠管理・タイムカード機能システム導入（予定）  
法人内職員情報伝達ツール（LINE WORKS）と連動したシステム導入の検討を始めた。  
運用デモを試みたが、実際の導入まで調整が必要。

## 業務省力化（決裁処理の迅速化・紙書類の削減）

- 電子決裁導入検討  
法人内職員情報伝達ツール（LINE WORKS）と連動したシステム導入の検討を始めた。  
勤怠管理・タイムカード機能システム同様、現決裁様式との整合性を図りながら導入に向け調整を行っていく。

## 計画外

- 新型コロナウイルス感染症対策に伴う環境整備
  - ・ 事業継続計画（BCP）の作成
  - ・ 感染症対策物品の購入（空気清浄機、折り畳み式テーブル、パソコン 等）
  - ・ 感染症対策研修（ビデオ視聴 等）
  - ・ 日常消耗品の適正在庫確保
  - ・ 行事・会議等開催の工夫（必要最小限、法人内職員情報伝達ツールの活用 等）
- 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業申請手続き
  - ・ 支援金 総額 6,154 千円
  - ・ 慰労金 総額 7,477 千円（146 名分）
- 佐賀型エール支援金申請手続き
  - ・ 総額 10,320 千円（172 名分）
- 「新型コロナウイルスに負けるな」地域応援、スタッフ応援活動
  - ・ 年度当初のマスク入手困難時期に、障害者就労支援センター作成の布マスクを全スタッフへ配布
  - ・ 秋ごろ、サージカルマスクを全スタッフへ 2 箱ずつ配布
  - ・ 地元の料理店のおいしい料理を給食で提供
  - ・ 地元の銘菓を、日々感染症対策に頑張っているスタッフへ
  - ・ 職員親睦会より、地元料理店の弁当を会員スタッフ昼食時に提供（懇親会の代わりに）

## 各事業部門の報告

### ① 医王保育園

#### 入園児の状況

- 年間延べ 674 名の子どもを迎え、保育理念及び保育目標に基づき、充実した保育にあたることができた。

#### 園内研修 「運動遊び」

- 朝の体操、ランニングを始め、季節に応じた運動内容をクラスごとに実施し、体を動かす楽しさを味わう。また、園外保育を多く取り入れ、自然に触れ五感を感じながら、丈夫な体づくりに努めた。

#### 園内研修 「防災対策」

- 火災・地震・不審者・原子力災害の対策について、スタッフ間で話し合いマニュアルを作成し、防災意識の向上を図った。

#### うちどく活動

- 各クラスで用意した 1 冊の絵本を持ち帰り、家庭で読書を楽しんでもらう取り組みを、リレー形式で実施した。

#### 食育活動

- 「食」を感じる環境づくりに取り組み、旬の野菜の話や食材クイズ、絵本の読み聞かせを実施した。
- アレルギー児やひとり一人のその日の体調に配慮した食事提供に努めた。
- 日々の献立写真を「さくら連絡網」で発信した。

#### 施設設備

- 回転遊具の修理や貯水槽内の塗り替えを行い、安全面を強化した。
- 未満児保育室のカーテンや日よけテントの取替を行い、明るい雰囲気作りを図った。

#### 地域支援

- 短大生の保育実習として、1 名を受け入れ、指導という立場でスタッフもよい刺激を受け、日ごろの保育を省みる機会となった。

### ② 障害者支援施設 瑠璃光苑（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援）

#### 利用者の状況

定員 40 名（入所者 42 名）

新規入所者 2 名／退所者 2 名 \*（内訳）死去 2 名

※入院者数延べ 182 名（前年度より 226 名減少）

- 利用者の疾病等も少なく長期入院が前年度比 44.6%
- 入退所により前年度の平均年齢 58.3 歳より 57.2 歳となり 1.1 歳若返った
- 平均障害支援区分は 5.88 で前年度と比較して 0.04 増加

現在 16 名の入所利用者が就労支援事業（生活介護・生産活動あり）「Job センター シャキッと」に通い、働く喜び、生きがい作りに繋がっている。

## 通所型生活介護サービス

7名の新規利用者があり、1日平均利用4.92名。（前年度より0.55名減少）

新型コロナウイルスの影響により減少となった。定員6名に対して1日平均1.08名の空がある為、今後も法人内・外の相談支援事業所との連携を図り、利用増に向けて取り組んでいく。

## 介護ソフト

令和2年度は各利用者の個別支援計画を介護ソフトに取り入れ業務管理、データ活用を行った。来年度も引き続き介護ソフトを活用し、現状分析、業務標準管理、リスク管理、個別支援計画の運用等、サービスの質の向上に向けて取り組んでいく。

また、障害支援区分更新者9名の対応を行い、全てにおいて適正な判定を受けることができた。

## サービスの質の向上

- 自己実現を目指した個別支援の実施
- 全利用者の地域生活・社会参加を推進
- 「栄養ケアマネジメント」「リハビリマネジメント」（個別支援の向上）（継続）
- 持ち上げない介護の推進（移動用介護リフト使用・腰部サポートウェア「ラクニエ」装着）（継続）
- 低床ベッドの導入（継続）
- インカムを活用したサービス改善・業務効率化の推進
- 意思決定支援の取り組み強化（意思決定支援計画書作成）（継続）
- 事業所の組織力・チーム力強化（助け合い・思いやりがテーマ）

## 短期入所（併設型）

- 1日平均利用者数8.37名（前年度より0.44名減少）
- 利用希望者多く、新規利用者を多数受け入れたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度より平均利用者数が減少。
- 緊急時の受入要請には、可能な限り対応している。
- 短期入所は利用者ニーズが高く、また多様化しており、更に相談支援事業所を始めとする関係機関との連携を深めていく。

## 日中一時支援

- 延べ利用者数237名（前年度より44名減少）
- 契約者数23名 ＊内、新規契約者4名（令和3年3月31日現在）
- 新規契約者は増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用減となった。
- 他圏域の佐世保市、松浦市からの利用も不定期であるが、利用継続中。

## 医務係

### 感染症対策

- インフルエンザ予防接種実施
- 感染症予防研修会開催
- 新型コロナウイルス感染症予防（情報提供・衛生用品管理・代理通院）

## 骨粗鬆症予防

- 整形外科受診し骨密度測定及び内服治療

## 口腔衛生

- 歯科検診実施

## 令和2年度年間取組（実績）

- 6月 利用者・夜勤従事者健康診断
- 7月 歯科検診
- 8月 褥瘡予防研修会「障害者への褥瘡予防を考える」
- 10月 医療懇談会（資料配布）  
利用者・スタッフインフルエンザ予防接種
- 12月 利用者・スタッフ健康診断  
感染症予防研修
- 3月 摂食嚥下研修会「障害者への摂食・嚥下・食事支援を考える」

## 給食係

総配食数 79,772食（内グループホーム食事配送 10,256食）

\*昨年より2,888食増

- 栄養ケアマネジメントによる利用者個々の食事支援
- 高齢化に伴う安全な食事提供
- 食事量・栄養量もしっかり補えるソフト食の提供継続
- R-1ヨーグルト提供継続（感染症予防と免疫力向上）
- 法人内部研修での講師協力（栄養管理・衛生管理・調理実習などの指導）

## ③ モーニングサポート（地域貢献事業：法人独自事業）

- 登録者4名（定員5名）
- 伊万里特別支援学校までの見守り、学校への送りを行った。

## ④ デイサポート瑠璃光苑（生活介護）

令和2年3月末登録者数 50名（新規利用者 7名、契約解除者 12名）

利用者総数 5,990名（計画比96%） 1日平均 19.8名（前年度 19.8名）

令和2年度は新型コロナの拡大により、サービスの縮小、休止、利用自粛等の影響もあった。外出や交流機会の減少もあったが、生活の場としての満足度の低下に繋がらない様努めた。又、行事やレクリエーションについても感染症予防徹底し、密を避けるための工夫等行いながら、利用者の方が笑顔で過ごして頂けるよう取り組んだ。

- 感染症対策を行いながらの送迎含め、サービス実施（感染症対策に係るサービス提供時の環境整備）
- 意思決定支援の取り組み強化
- 移乗サポートロボット Hug やリフト（床走行式）の継続した使用、抱えない介護の推進

- 『なんでも福祉見守り隊』としての送迎時対応、啓発活動行った
- 日中活動の充実、パラスポーツ（ボッチャ）取り組みの継続
- 感染症対策を行いながらの屋内外レクリエーション実施

## ⑤ 瑠璃光苑 ホームヘルプ事業（居宅介護・同行援護・訪問介護・総合事業・移動支援）

令和3年3月末登録者数 84名

新規利用者 14名（居宅介護5名、同行援護1名、訪問介護1名、移動支援6名）

契約解除者 9名（居宅介護4名、訪問介護1名、総合事業3名、移動支援1名）

「感染予防を徹底しサービス提供を維持する。」新型コロナウイルス感染症対策を徹底した1年であった。通所系サービスや短期入所が感染予防のため自粛される状況の中、障害のある方々の「暮らしと社会活動」を支えるため、ヘルパー一同結束しサービス提供を継続した。

LINE WORKS を活用し、新型コロナウイルス感染症関連の伝達などについて、チーム内でのコミュニケーションを絶やさずサービス提供を行った。

外出系サービスの利用自粛が相次いだため、感染症対策を徹底することで、外出系サービスが実施できる体制づくりを行い、社会生活をサポートできたと感じている。

- 困りごと等の丁寧な聞き取りを行うことでサービス利用枠拡大
- 利用者の意思決定についての研修
- 感染症対策を徹底してホームヘルプ事業所研修の実施（法人内事業所への参加呼びかけ）
- 感染症対策を徹底しながらの外出系サービス実施
- 感染症対策として緊急時携行品の整備
- やむを得ない身体拘束についての研修等各種研修会の実施
- 冬場の全公用車へのスタッドレスタイヤ装備
- 夏場の携行品の整備（酷暑対策・熱中症予防）
- ホームヘルプ事業の再構築として、曜日・時間帯の平準化（稼働率の向上）

## 障害者就労支援センター（Job センター ピシャット・シャキット・キリット）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染予防の観点から事業所内のイベント中止や通所自粛をよぎなくされるなど、サービスへの影響が発生した。しかしながら、Job センター ピシャット・キリットにおいては在宅支援を行うなどサービス提供の継続を図った。

また、イベントについても、3密の対策を取りながら新規のイベントを実施した。

- 障害者就労支援センター（多機能型）としての利用者総数は 10,425 名（目標 10,347 名）  
1日の平均利用者数 41.8名
- 3事業共通行事
  - 避難訓練 5月・11月（年2回実施）
  - 年度末ジャンボ宝くじ（事業所オリジナルイベント）



- 就労支援事業収入（売上額）
 

Job センター ピシャット（就労継続支援 B 型）	13,826,293 円（前年比 88%）
Job センター シャキット（生活介護）	832,673 円（前年比 75%）
Job センター キリット（就労移行）	1,616,666 円（前年比 111%）
- ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域イベントへの出店販売や各種研修会等の印刷物の発注が激減した中、新規の作業受注等やコスト管理の徹底を図ることで、工賃の確保に努めた。

## ⑥ Job センター ピシャット（就労継続支援 B 型）

- 利用者は延べ 7,180 名（1 日平均 28.4 名）
- 令和 2 年度末日時点登録者 48 名
- 新規利用者 7 名、契約解除者 6 名

### 重点項目

- 工賃額の維持、向上（月額平均 20,000 円以上）  
⇒ 前年度実績を上回ることが出来た（実績値は下記記載）
- 利用者が安心して活動できる環境づくり  
⇒ 利用者の様子観察を丁寧に行い、作業提供を行った
- 欠席率低下に向けた相談支援事業との連携  
⇒ 令和 2 年度：13%（前年度 12%） 結果として、欠席率は増加したが、スタッフの相談支援事業との連携意識は向上した

### 作業内容

- 印刷作業（名刺やチラシ、製本印刷、オリジナルカレンダー等）
- 布商品製造・販売（オリジナルバッグや小物入れなどのハンドメイド）
- 洗濯作業
- 清掃作業
- 請負作業（チラシ封筒詰め、ゴム手袋の袋詰めや木箱の組み立て、菓子箱の折り作業等）
- 平均工賃月額 21,078 円（昨年度 20,368 円）

## ⑦ Job センター シャキット（生活介護）

- 利用者数は延べ 1,923 名（1 日平均 8.0 名）
- 令和 2 年度末日時点登録者 24 名
- 新規利用 3 名、契約解除者 1 名

### 重点項目

- 生産活動に係る職員のスキルアップ  
⇒ 先輩職員にノウハウを受けながらスキルアップが図れた。今後も継続する
- 新規利用者の受け入れ  
⇒ 前年度より、年間延べ 167 名の増加
- 支援マニュアルの作成及び実践  
⇒ 利用者個々にまとめた支援マニュアルを作成し、実践している

## 作業内容

- 布商品作成・販売（小物入れや、子供向け商品等）
- 季節商品製造（クリスマスや正月飾りなど）
- 工賃日額 398 円（前年度 432 円）

## ⑧ Job センター キリッと（就労移行支援）

- 利用者は延べ 1,322 名（1 日平均 5.2 名）
- 令和 2 年度末日時点登録者 5 名
- 新規利用者 2 名、契約解除者 2 名（2 名とも一般就労に伴う解除）
- 就職 2 件、職場実習 6 件

## 重点項目

- 就職支援及び職場定着支援への着実な取り組み  
⇒ コロナ禍で就職目標数 4 件には届かなかったが、職場定着率（6 ヶ月定着）は 100%となった
- 施設外支援の充実  
⇒ 新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から、控えざるを得なかった
- 新規利用者獲得に向けた取り組み  
⇒ 障害者就業・生活支援センター RuRi の終了を見据え、ハローワーク等との連携を意識的に行った
- マニュアル等の整備  
⇒ 生産活動に係るマニュアルの整備を行った
- 就労定着支援事業の開設準備  
⇒ 滞りなく準備をすすめ、令和 3 年 4 月 1 日に事業開始することができた

## 作業内容・活動内容

- 生産活動（洗濯、陶器加工、網戸張替等）
- パソコン訓練や施設内の清掃等、就職する際に必要となる活動や訓練
- 交流会（在職者と現利用者の交流）
- 在宅支援（一般就労に向けた学習）
- 工賃日額 1,822 円（前年度 1,875 円）

## ⑨ ジョブコーチ（職場定着支援）

- 支援対象者 11 名（うち 10 名が Job センター キリッとからの就労者）
- 新規 2 名 離職者 1 名（就職後 8 ヶ月経過し、離職）
- 6 ヶ月以上の定着率 100%
- キリッと就労定着率区分（基本報酬算定）に大きく寄与

## ⑩ グループホーム K I T E N（共同生活援助）

- 年間延べ利用者数 4,882 名（計画比 96%）
- 嘱託医の往診やホームヘルプ通院同行での通院対応を行い、健康維持に努めている。
- 法人・事業所の BCP に則り、安心・安全な生活の場を提供した。

## ショートステイKITEN（短期入所）

- 年間延べ利用者数 1,324名（1日平均3.6名）
- 新型コロナウイルス感染症による影響で予定していた利用数より減少した。
- 地域生活支援拠点事業として、体験利用の受入準備を進めている。

## ⑪ グループホーム ビラ・ラズリ（共同生活援助）

- 年間延べ利用者数 4,331名（計画比99%）
- 事業転換し初年度であったが、高齢化・重度化・健康面の悪化があり、特に健康面に留意した支援を進めた。
- 生活支援員が配置されることで、生活の援助ができるようになり、生活の質の向上（QOL）に繋がった。

## ⑫ パーソナルサポートセンター 空（くう）（一般・特定・障害児・地域相談）

計画相談、障害児相談が定着した中、医療や教育、福祉など多種多様な専門機関と連携を図る機会も増加している。今後も利用者や家族が地域生活を安心して送ることが出来るよう、相談支援専門員として専門性を高めながら支援していく。

障害児の相談件数・契約者数は年々増加傾向しており、伊万里市・有田町福祉課と「障害児相談支援事業の安定的継続に向けた方策」の打ち合わせを行い対応している。

令和2年度相談種別支援件数（実績）

件数（件）

支援項目	特定・障害児相談支援事業		一般相談支援事業	
	障害者	障害児	地域移行	地域定着
利用計画	346	235	0	95
モニタリング	951	377	—	—
合計	1,297 (前年比 106%)	612 (前年比 133.7%)	0 (前年比 — )	95 (前年比 101%)

## ⑬ 基幹型相談支援事業 伊万里・有田障害者生活支援センター（一般・特定・児童・地域相談：伊万里市、有田町より受託）

年間を通して、障害児者及び家族、行政、教育機関、医療機関などから相談を受け、支援を行った。また、地域生活支援拠点の中心的役割を果たした。

令和2年度活動実績

市町名	相談延べ件数	相談延べ人員
伊万里市	4,752	326
有田町	2,159	109
合計	6,911 (前年比 120%)	435 (前年比 104%)

相談件数が増加した要因として、障害児の相談件数が増えたことが要因のひとつであると思われる。また、例年になく要因としては、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として事業所の休み期間中の相談や調整、電話対応の増加も考えられる。

#### ⑭ 瑠璃光苑 居宅介護支援

利用者については、死亡や施設入所等で13名減になったが、新規利用者6名と支援から介護になられた利用者が7名おられ収入は予算を上回った。新規の紹介先は地域や職員の家族、現利用者の家族等からの依頼が多かった。ケアマネジャーの必須研修である専門課程Ⅱの受講を終了。

令和2年度活動実績

実人員（人）

市町名	要支援者	要介護者
伊万里市	17	33
有田町	1	2
合 計	18 (前年度より - 9人)	35 (前年度より+4人)

#### ⑮ 障害者就業・生活支援センター RuRi（労働局・佐賀県より受託）

【令和2年度末をもって委託業務終了】

- 年度末の登録者数 400名
- 就職件数 34件（昨年度比 77.3%）
- 実習件数 26件（昨年度比 72.2%）

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等により就職件数や実習件数は減少した。

令和2年度活動実績

地区	登録者数	新規登録	相談件数	就職件数	実習件数
有田・伊万里	174人	17人	1,593件	13件	16件
唐津・玄海	229人	14人	1,516件	21件	10件
合 計	434人	31人	3,109件	34件	26件

新規登録者は身体障害者6名、知的障害者10名、精神障害者13名、その他2名で新型コロナウイルス感染症対策による自粛の為、前年より減少はしたが精神障害者の登録は依然として多い。令和2年度が障害者就業・生活支援センターとして最終年度となるため、次年度受託予定の唐津の事業所ルートへの引継ぎと新規事業の就労定着支援事業開始の準備を行うと共に、事業受託にて得たノウハウ等を法人へ受け渡しを行った。

## 委員会活動報告

- ◆ 東方会では、各事業部門の組織・スタッフによる横断的な取組として以下の委員会活動を行っています。この横断的な活動により、事業部のみに偏った狭義の組織ではなく所属を超えた意見や活動を行うことでの相乗効果と全体最適を目指します。

### ① リスク管理委員会

法人内のリスクに関する対策や啓発活動を中心に行った。

- 各委員会からの KYT（危険予知トレーニング）の実施
- 安全パトロールの実施
- 感染症発生前の利用者通知文書作成
- 緊急連絡網の見直し

### ② 防災管理委員会

- 法人全体での防火・防災の取組
- 災害時備蓄品の維持管理・使用
- 7月の大雨対応、特に9月の台風10号により、グループホーム ビラ・ラズリ利用者12名を入所施設で緊急受入
- 災害発生時の監督官庁への被災状況報告
- 原子力防災訓練の継続的实施
- 救命救急研修の開催
- 防災管理委員への消火設備、消防法等の知識研修の開催
- 障害者支援施設瑠璃光苑職員へ非常用自家発電設備の使用方法周知と確認
- 佐賀県 DCAT への法人職員参画

### ③ 苦情解決委員会

委員会では、3ヵ月に一度委員による会議を行い、同じ内容の苦情が出ないように対策を講じている。今後も、内容検証及び対策を行い減少に繋げていきたい。

- 苦情受付15件（前年度17件）、要望受付8件（前年度3件）、意見受付3件（前年度0件）
- 3ヵ月に一度の苦情対策会議
- 各部署での勉強会の開催（全スタッフ対象）
- マイナスイメージを変える言葉の浸透

### ④ 虐待防止委員会

- 委員会活動（2か月に1度委員会を開催し、研修状況の確認、イエローシート、虐待に繋がる案件などを話し合う）
- 身体拘束適正化委員会（3ヶ月に1度開催し、身体拘束の状況や、廃止に向けた話し合いを行う）
- 人権研修（全職員を対象に LGBTQ についての研修を行った）

- 虐待防止研修（外部研修に参加）
- 新人職員研修（入職時に虐待防止と権利擁護についての研修を行う）
- 施設入所体験研修（月に2回各部署から1名ずつ出してもらい体験研修を行った）

## ⑤ 安全運転管理委員会

事故発生時は都度ドライブレコーダー映像の確認を行い、事故の原因を究明し、再発防止の指導及び職員全体へ周知を行った。

- 公用車破損 7件（前年度より 2件減少）＊交通事故に該当する事故はなかった。
- 65歳以上の運転業務を行う生活支援員への運転技術確認と指導の徹底
- 飲酒運転ゼロ事業所の登録（飲酒運転撲滅の為の啓発活動）
- 冬タイヤやチェーンの準備啓発・装着の推進
- 地域の団体等へのマイクロバスや公用車の貸し出し（地域貢献事業）

## ⑥ 設備管理委員会

大国拠点 2 期工事に伴い法人内の備品整理や引っ越しを率先して行った。軽微な補修、様々な機器トラブル等委員会を中心に迅速な対応に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対策として各部署の感染防止対策設備の準備等を行った。

- 大国拠点 2 期工事に伴う法人内の備品整理や引っ越しへの協力
- LINE WORKS の活用による法人内設備の補修や機器トラブルの迅速な対応
- 飛沫感染防止対策用品の各部署設置への協力
- 在庫管理によるコスト削減への取り組み
- 備品管理マニュアルと導入評価による更なる設備・備品の有効活用の検討

## ⑦ 広報委員会

- 年 4 回（4・7・11・1 月）るり色新聞の編集・発行（累計 1,906 部）
- 近隣地区への広報（回覧版にて）開始
- 引き続き法人内の取り組みを中心に障害者就労支援センターの商品紹介
- 法人職員の研修会等への参加・取り組みを紹介
- 新たに医王保育園の行事等も紹介
- 引き続き法人内事業所のレクリエーション・イベント等もブログにて情報発信

## ⑧ クレド・マナー委員会

- クレド「信条・約束・志」の浸透  
朝礼や申し送りの際に唱和実施
- 「福祉職としてのマナーアップ」向上への取組  
「マナーアップ向上を目指して」の冊子を作製し各部署に東方会の人材育成の一つとして、意識向上に取り組んでいる。
- アンケートについての取り組み。  
マナーアップアンケート：集計後、内容を各部署会議の際に伝達。

素敵な人アンケート：アンケート用紙を切り取りタイプで準備し、素敵な人として記載された職員に対して、記載されている内容の用紙を渡すことでモチベーションアップ、良好な関係性の構築を意識し取り組みを行った。

- ありがとう券による職場の活性化

2カ月毎の委員会定例時に各事業所のありがとう券の枚数と内容を確認し、印象に残る内容をラインワークス活用し職員に周知することで意識を高めることが出来ている。その成果もあり、昨年441枚だったのに対し今年は490枚の提出となった。

## ⑨ 衛生委員会

産業医の指導のもと、施設内巡回し、作業環境並びに衛生状況の確認。長時間労働者の確認、業務配慮規程に基づくスタッフの健康状況確認、公務災害並びに職場内での事故・事件等の確認などを行っている。

また、職員の福利厚生としての助成金「黄色い靴の助成金」（健康診断2次検査費用の助成）、「子のインフルエンザ予防接種費用助成金」等の報告・管理も行っている。

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、毎年5月に実施していた職員健康診断を令和2年度は12月に実施した。

- 衛生委員会への報告内容
  - ①業務配慮 5件 ②休職 1件 ③公務災害（労災） 2件 ④相談 2件
- 黄色い靴の助成金（健康診断2次検査受診助成）  
利用スタッフ 13名 60,773円
- 子のインフルエンザ予防接種費用助成金  
利用スタッフ 14名 74,500円